



# インフルエンザの感染経路

～津島市民病院の感染対策～

問合せ 市民病院管理課管理 G  
☎28-5151(内線2201)

## 病原体と感染症



地球上には、目に見えない大きさや形が異なる多くの種類の「生命体」が存在しています。それらの生命体の中には、人間の体に侵入し、病気を引き起こすことがあります。この病気の原因となる生命体のことを、「病原体」と呼び、病原体により病気になることを「感染症」と言います。

感染症のほとんどは、ウイルス・細菌・真菌(俗に言う「カビ」のこと)などの人間の肉眼では見えない小さな病原体である「病原微生物」によつて起こります。例えば「肺炎」にも、ウイルスによる「ウイルス性肺炎」、細菌による「細菌性肺炎」、真菌による「真菌性肺炎」などがあり、それぞれ症状や治療法が異なります。

一般に、健康な人間は、病原微生物に負けない力を持っています。少しくらい病原微生物が体の中に入つてきても、自分自身を守る免疫の力でそれらを退治してしまします。

病院には、いろいろな病気の患者さんが治療のために入院しています。肺炎、尿路感染症、消化管感染症など、感染症自体の治療のために入院している人もいれば、外科手術治療や、癌<sup>がん</sup>に対する抗がん剤治療のために入院している

人もいます。入院中の患者さんの多くは、健康な時とは異なり体が弱っています。特に、手術直後の患者さんや抗がん剤治療を行った患者さんなどは、抵抗力が弱つているために、普段であればなんともない病原微生物により、感染症を発病してしまうことがあります。

## 市民病院の感染対策

市民病院では、「院内感染対策(院内で感染症の原因微生物が伝播するのをできるだけ防ぐための対策)」を常に行いながら毎日の診療にあたっています。

## 感染経路

病院内で、病原微生物が広がる経路は、主には「接触感染」「飛沫感染」「空気感染」の3つがあります。

接触感染

飛沫感染

空気感染

このうち最も多いものは「接触感染」です。これは、病原微生物が、特に人の手を介して、ヒト→ヒトと直接に伝播したり、ヒト→モノ→ヒトと間接的に伝播するものです。これを防ぐため、適切な手洗いや手指の消毒・手袋の着用・環境表面(ドアノブやベッドの柵など)の消毒を行っています。

「飛沫感染」は、患者さんのくしゃみや咳などの飛沫によって病原微生物が伝播するものです。飛沫は2mを超えては飛ばないとされているので、患者さんから2m離れること、マスクを着用することによって防ぐことができます。

「空気感染」は病原微生物が微少なため空气中を漂うというもので、病原微生物は結核・麻疹・水痘の3つのみで、患者さんには空調の独立した病室で治療します。医療関係者は粉塵作業にも用いられる目の細かいマスクを着用します。

## インフルエンザの季節がやってくる



11月となり、今年もインフルエンザの季節がやってきます。前述の感染経路の説明の中で、インフルエンザについては敢えて触れませんでした。インフルエンザの感染経路は3つの内のどれだと思えますか？

答えは、「飛沫感染」と「接触感染」の両方です。インフルエンザは「飛沫感染」のみと思っている方が意外に多いのです。

が、決してそんなことはなく、接触感染でも十分に伝播します。インフルエンザウイルスの環境表面での生存時間は、8〜48時間であることが分かっています(表面の性状によって異なります)。インフルエンザの流行時に電車に乗って吊り革につかまれば、まずそこにはインフルエンザウイルスが多量に存在します。インフルエンザを発病するかどうかはともかく、手洗いをしない限り、インフルエンザウイルスは手の表面で何時間も生存しています。

ご家族や友人などが入院中で、病院にお見舞いに行つたとします。おそらくマスクは着用されていくでしょう。でも手洗いまでするでしょうか？もし手洗いをしないままで、入院患者さんの手に触れたりしたらどうなるでしょう。インフルエンザウイルスは入院中の患者さんにつつてしまい、抵抗力の弱っているその患者さんはインフルエンザを発病してしまうかもしれません。

インフルエンザの流行期には、街中至



## 市民病院の感染対策

院内で起こるさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守るために活動を行う組織として、「感染対策チーム」があります。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などさまざまな職種が集まり、横断的に病院全体の感染対策活動をしています。



主な活動として、週1回の病院内の巡視を実施しています。病院内の各部署を順に点検し、現場の感染管理状況の監視、指導を行っています。

また、市民の皆さんに公開講座などを通して感染防止のための教育を行ったり、感染管理教育の実施、感染対策マニュアルの作成・改訂など様々な活動をしています。

る所にインフルエンザウイルスがいるものと考えする必要があります。だからこそ、流行期前のワクチン接種と、流行期のマスク着用と、それと同じ位の重みでの手洗いが必要なのです。ワクチン接種によって自分が発病することを防ぎ、マスクをすることによって自分が飛沫を浴びることや自分が飛沫を飛ばすことを

防ぎ、手洗いをすることによって自分が不用意にインフルエンザワクチンの運び屋になってしまうことを防ぐのです。言ってみれば、個人レベルでの感染対策が必要なのです。ワクチンやマスクや手洗いは、自分だけのためのものではなく、まわりの人のためのものでもあるのです。

